

Be The Inspiration

Rotary International District 2760

インスピレーションになろう

2018-19 ガバナー月信

2

2019 FEB



あなたの街でロータリーを！
あなたの街からロータリーを！

CONTENTS

- 2 …… 表紙のおはなし
- 3 …… ガバナー便り
- 5 …… ろーたリーぱっちわーく
- 9 …… 新着ニュース 他



インスピレーションになろう

表紙の おはなし

写真提供：
北 健司 会長エレクト（春日井RC）



「 玉 野 鉄 砲 隊 」

春日井市玉野町は春日井市東部の高蔵寺ニュータウンに東接する町で、愛知高原国定公園に隣接する風光明媚な里山を有する桃源郷です。古くからの文化財と郷土芸能伝承を大切に守っている温かい人情の町です。

写真は玉野鉄砲隊です。玉野町には現在8丁の古式火縄銃が保存されています。現在は昭和48年に発足した玉野郷土芸能保存会が保守管理を行うとともに、毎年玉野五社神社の例祭日に火縄銃の「空打ち」奉納が行われます。一斉打ちは壮観です。

水野代官所は尾張藩が天明元年(1781年)に春日井郡と愛知郡の一部109ヶ村を治めるために設けた代官所で、玉野村は水野代官所より火縄銃の所持が許されていました。第二次世界大戦時、国の刀剣類の強制摂取命令の中、先人たちの知恵と努力によって摂取を逃れ、現在に残る極めて貴重な文化財であります。

参考資料：玉野のいま昔



「 道 風 く ん 」

春日井市のユルキャラの道風くん(右端)です。平成20年の春日井まつりで「書のまち春日井」のマスコットとして市民によって選ばれました。

平安時代の三跡のひとり「小野道風」は、春日井生誕と伝えられています。春日井市では「書のまち春日井」をキャッチフレーズにし、道風記念館の事業、全国公募の書道展である道風展の開催など、書道文化の振興に力を入れています。

春日井市は実生サポテン生産日本一です。サポテンイメージキャラクターとして春日井の漢字をもじって、左から「春代」「日丸」「井之助」の愛称で春日井商工会議所が応援しています。

国際ロータリー 第2760地区
ロータリークラブ会員の皆様へ

1月は伊藤靖祐ガバナーエレクトが国際協議会出席のため、米国サンディエゴに1週間の日程で研修に行かれました。その詳細は1月末の諮問委員会で発表と説明がありました。

次年度のR Iテーマは『ロータリーは世界をつなぐ』ですが、すでにMy ROTARYで発表されています。この解説は伊藤GEが主催の地区チーム研修会も会長エレクト研修会(PETS)も終わっていないので、ここでの説明は省かせて頂きます。

昨年は今ごろは、私も国際協議会から帰国し、自分の年度の方針作りに忙しくしておりました。伊藤GEもしっかり準備されて行かれるようなので、良いスタートが期待できると思っております。

さて、年が明けてからの、ガバナーとしての私の行動ですが、ガバナー補佐主催のIMや各クラブの周年行事への参加がありますし、他地区の地区大会へも出席の予定をしています。

もちろん、ハンブルクでの国際大会とガバナーナイトも重要な行事です。

そのような日程の中、ブログにも書きました通り、地区内のクラブを訪問しております。

ガバナー公式訪問でホストクラブではなかったクラブへの訪問です。ガバナーが地区の活動方針として分区内交流を掲げ、他クラブへの訪問はロータリー活動に色々と学ぶことが多いと推奨していますので、私も訪問させて頂いております。

合同例会のホストでもなく、単独開催でもなかったクラブは34クラブあります。

前半期にすでにビジター訪問したクラブや周年で訪問するクラブを除いても、後半期だけで21クラブありますので、単独の訪問には21日は必要です。

それでも私は、ガバナーは自地区の各クラブの良さを知ることが重要だと思いこの計画を遂行しております。R I 会長方針を伝えることも重要ですが、N E T 社会で多くの情報が会員に瞬時に伝わる時代ですので、R I の方針などの伝達手段としてのがバナー公式訪問もその様が変わってきております。変わらないのは、ガバナーは各クラブ訪問し、一つ一つのクラブと様々なことを話すことだと思っております。

ガバナーには色々なタイプがありますので、この方法が正しいと言ってるのではなく、私は各クラブに訪問し、交流を深められれば良いなあと思っています。

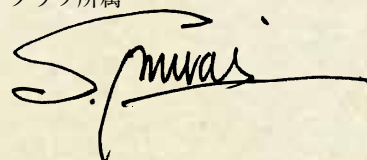
公式訪問ではないので、入場セレモニーもなく例会前から多くの会員とお話もできます。食事もゆっくり食べられるし、普段のクラブの例会の雰囲気を肌で感じる事が出来ます。この決して余所行きの例会でない運営は、本当に心温まる楽しいものです。打ち合わせ違いや時間の大幅なズレなどのハプニングもありますし、普段の会長スピーチやニコニコ発表など、本当に楽しい雰囲気の例会を見ることが出来ます。

ロータリーで大切なのは、各クラブの運営が輝くことです。クラブの中がまとまるからこそ、良い雰囲気が醸し出せて、会員増強や素晴らしい奉仕活動が出来ると思っております。

他クラブへの訪問で体験できるこの触れ合いは、ロータリーの会員として、とても大切なことだと思っております。

今月もクラブ訪問いたしますが、地区委員会や地区行事も多くあり、2月もほぼ毎日がロータリーの予定が入っています。

国際ロータリー第2760地区 2018-19年度ガバナー
豊橋ロータリークラブ所属



地区ホームページは [こちら](#)

ガバナーズウェブサイトは [こちら](#)

ロータリー ぱっちわく

その15
村井ガバナー的まころ

再び職業奉仕について考える

先回職業奉仕のR Iとの関連について書いたが、今回は私が習ってきた職業奉仕について述べてみたい。

職業奉仕というと奉仕の理念と結びつけを解説されているものが多く、分かりにくいと思われている。職業を通じて奉仕をすると訳されることが多いが、奉仕するというとボランティアのようなものを考える方が多いので、無医村の診療奉仕や災害地での復興支援に自分の職業スキルを活用することだと思う方も多い。最近のR Iの考え方ではこれも大切な職業奉仕とされているが、先報のとおり社会奉仕との区分を明確にしたいロータリアンには解しがたい考えである。

まず、理念と言うことを切り離して考えてみよう。千葉県松戸RCのPDG土屋亮平氏は『職業人として、正々堂々と王道を貫いたご褒美が、各自の企業の繁栄につながる』と解説されています。

職業人としてとは、ロータリーは職業人および専門職の人々の集まりであるから、ロータリアンは職業人であるとの前提であると思う。（このルールは主婦や学生も会員として認めることで脆くも崩れたが）

次の正々堂々と王道を貫いたについては、次のように考える。正々堂々とは正しく立派な態度であるから、誰からも非難されることなく誰もがその正当性を認めるような商売方法で行うことと解したい。ここに四つのテストとして倫理観を重ね合わせれば良いのではないかと思う。

最後の各自の企業の繁栄につながるは、ロータリー活動にサービスの概念を取り入れた、アーサー・フレデリック・シェルドンの『最も良く奉仕するもの、最も多く報われる』の報われるはprofitsと書かれてあり、利益をもたらずと考えられる。

整理すると、商売をするうえで正しい方法でやれば多くの利益が上がるということであろう。この正しい方法とは何かであるが、私はお客様への思いやりを具現化した商品開発や販売方法、接客態度などであると思う。これを称してサービスと言うことで、単なる値引きやおまけではない。

この商売の過程（考え方ややり方）をサービス＝奉仕とすれば良いのであって、商売をすること以外にすることや商売することの後に現れるものを奉仕と考えるから難しくなる。お客様のために正しい商売をする、そのことが奉仕活動だよと言うことである。

であるから、職業に依ってとか、職業を通じてとか、奉仕と言う別物があるという風にとらえることは、職業奉仕の初歩的な理解としては、あまりお薦めしない。単純に嘘をつかない正しい商売をすれば、企業が繁栄することで良いと思う。

では、このこととロータリーがどう関係しているかである。ロータリーの例会を早退したり、欠席の理由に職業奉仕をしているのと言う方がいる。上記の説明からなら、正しい商売のためであれば良いということだが、果たしてそうだろうか。

私はロータリーの例会とは、出席することが前提であると思ってる。これは例会にでて多くの会員と話をし、倫理観を磨いたり発想の交換をしながら、何が正しい商売であるかを確認できる、あるいは新たに気づくことが分かる、とても有意義な会合であるからだ。

真の職業奉仕は自己満足の職業観を正しいとすることでなく、ロータリーの例会と言う場所で、自己の職業を正しく磨き上げることで、事業の繁栄に結び付けることである。

今一度言い換えれば、職業つまり商売を正しく行う行為が職業奉仕である、これを確認するのがロータリーの例会である。ゆえに、職業奉仕は個人の事業として行う奉仕であるともいえよう。

この続きは、またの機会があれば書いてみたいと思っている。

RID2760 2018-19 ガバナー 村井 総一郎

ろたリー ぱっちわく

その16
村井ガバナー的まころ

会長スピーチについて考える

後半期になって、私は一人のビジターとしてクラブ訪問を行っている。普段の例会運営を見ることが出来るので、私にとってロータリーを知る良い勉強となっている。(ガバナー便り2月号参照)

私が例会に出席して興味を持っている一つが例会の会長のスピーチである。ガバナー公式訪問の時には、ガバナーを迎えての歓迎の挨拶であったり、ガバナーが聞いているのだからと少し張り切り気味でお話をされる方も見えるので、少々固い雰囲気でのスピーチを聞くことが多い。

しかし、この頃になると各クラブの会長にとってスピーチをするのも慣れてこられたのであろうか、余裕をもってお話をされているように見える。

会長スピーチは主にロータリーについての内容を、会員に伝えるのが基本であると思うが、ロータリー歴の少ない会員が会長になると、このようなことを期待するのは難しいと思う。とは言え、あまり興味をひかない会長個人の趣味の話が聞かされるのも、私には辛いものである。

演芸において客席の笑いを初めに取ると後の話のウケが良くなると言われている。これを“つかみ”と呼ばれている。私はこれと全く同じとは言えないが、会長のスピーチはその例会の雰囲気を大きく左右すると思う。会員が興味を持つような話で演題に集中させることはその後の例会進行に重要なことだと思っている。

決してウケを狙っての冗談話でなく、例会を盛り上げる話が良いと思う。特別な話術も不要だと思うし、スライドを毎回使用しての解説もそれほど必要はないだろう。会長の人柄あふれる内容であれば良い。しかし政治や宗教に深く入り込んだ話は、ロータリーには適さないと考えている。

とは言え、無理に当日の例会の内容に沿った話も不要だと思う、むしろしない方が良いと思っている。私が職業奉仕で講師に招かれた時に、会長が他の方の講演内容を孫引きした話を先にされると、それを否定することもできず、本来の話がボケてしまうことも有る。

また、当日の例会担当の委員長が、話をするであろうと明らかに予想できることを、会長が話してしまい、担当委員長が『先ほど会長がすでに話されましたがもう一度同じ話を…』となってしまふ。

他にも当日の卓話者の話、例えば〇〇に関する卓話であれば、Wikipedia（ネット上の百科事典のようなもの）などで調べたことを、そのまま歴史やいわれなどを話される会長がいる。これは聞く方も話す方にも迷惑なことだと思っている。同じ内容で盛り上げようとしているのだろうが、違った話で盛り上げてもらいたい、その話の専門家が次に控えておられるのだから。

会長のスピーチが例会の雰囲気を作るということは前述の通りだが、その例として次のことが言えよう。例えば会長が公務や病気などで欠席される例会で、副会長が会長の代わりにスピーチをされることがあると思う。このような日の例会は私が所属するクラブだけでなく、他のクラブもちょっと雰囲気が違わないだろうか。決して副会長が雰囲気を壊していると言っているのではなく、副会長の人柄を感じる事が多く、その時の初めのスピーチで例会の雰囲気が変わるのではないだろうかと言うことである。

毎回の会長スピーチが嫌で会長を受けたくないという会員の方がいるのも事実であり、スピーチの内容に苦心するという話もたまにクラブ内外で聞くことが多い。それほど悩まれることもないと思うが、嫌なものは嫌なのだろうと思う。私も毎回の会長スピーチには色々と考え、工夫させられた経験を持っている。

もちろん会長スピーチがどのようなであっても、最終的には当日のゲストによる卓話やメインイベントで、例会の雰囲気が大きく変わるのは事実である。しかしながら、私はクラブ会長のスピーチにいつも真剣に耳を傾けたい、そこには会長のクラブへの思いのほどが出ているからである。あまり固く考えず、スピーチをするというより、皆さんに話を伝えますよ、くらいの感じでの話が良いのではと思うが、皆さんはどうでしょうか。

RID2760 2018-19 ガバナー 村井 總一郎

新着情報をホームページ(HP)で公開しています

各種お知らせをはじめ定期配信コンテンツは、ガバナー月信発行に合わせてHPにて更新します。各バックナンバーも閲覧しやすくなりました。

<https://www.rotary2760.org/g18-19/>

▼コンテンツタイトルをクリックするとリンク先PDFを開きます▼

定期配信

■ガバナー月信サイト

村井ガバナーのコンテンツやブログを掲載
メニュー>ガバナーズウェブサイト(各ページへ)

■ハイライトよねやま

メニュー>月次報告 (PDF)
vol.226 2019/1/15発行

■コーディネーターNEWS

メニュー>月次報告 (PDF)
2019年2月号 2019/1発行

■財団室ニュース

メニュー>月次報告 (PDF)
2019年2月号 2019/1/28発行

■文庫通信だより

メニュー>月次報告 (PDF)

ロータリー文庫より

これまで文庫通信につきまして、毎月25日発行しておりましたが、より厳選し、今後は隔月の「偶数月」に発行することとなりました。次号375号の発行・掲載は、2月25日(月信3月号)となります。

■風の便り

メニュー>月次報告 (PDF)
vol.5 (通刊53号) 2019/1/8発行

■会員数と出席率

メニュー>月次報告 (PDF)
※2019年1月度分は2月中旬以降の配信となります。

お知らせ・お願い

■ガバナー候補推薦について

今年度の推薦は終了しました。

■各種賞・表彰の概要について

メニュー>お知らせ

■立法案提出のお願い

今年の提出期限は終了しました。

■WFFレポート

メニュー>月次報告
WFF参加報告書をHPに公開しています。ご覧下さい。

■地区大会レポート

メニュー>月次報告
地区大会参加報告書をHPに公開しています。ご覧下さい。

■青少年交換のお願い

今年の募集は終了しました。ご協力有り難う御座いました。

活動報告/その他更新記事

「平和と紛争予防/紛争解決月間」 によせて

奨学基金・平和フェロシップ委員長 長谷川 龍伸

ガバナーやスタッフのブログも
ガバナーズウェブサイトでも更新中!

■分区内交流だより

本年度は、他クラブ例会への積極的参加を推進しています。

■地区委員会報告

20委員会全ての活動情報を
随時更新しています。

最新情報の取得はメールマガジンが便利です!
最新記事リストはメールマガジンでも配信します。リストをクリックするだけで
閲覧したいページをブラウザで展開します。是非、活用ください。

登録は
こちら